

東京科学大学
総合研究院

フロンティア材料研究所 活動報告(要覧)

第10号



2025年4月1日～2026年3月31日

Materials and Structures Laboratory
Institute of Integrated Research
Institute of Science Tokyo

目 次

1	機構と規模	1
2	共同利用・共同研究拠点 研究	5
3	主催・共催した会議, 講演会	15
4	競争的外部資金による研究	23
5	共同研究	33
6	研究業績	35
7	研究活動	83
8	国際交流	103
9	教育活動	107

序

フロンティア材料研究所 所長 原 亨和

副所長 大場 史康、平松 秀典

本活動報告（要覧）は、共同利用・共同研究拠点である「総合研究院 フロンティア材料研究所」の2025年度（2025年4月1日～2026年3月31日）の活動の主要部分をまとめたものです。

当研究所は、東京工業大学研究改革により、2016年4月1日に旧応用セラミックス研究所からフロンティア材料研究所に再編されました。この再編では、応用セラミックス研究所の建築材料分野は未来産業技術研究所に移管され、一方で未来産業技術研究所の金属材料分野がフロンティア材料研究所に統合されました。これにより、セラミックスの研究所から、「多様な元素から構成される無機材料を中心として、有機・金属材料などの広範な物質・材料系との融合を通じて革新的な物性・機能を有する材料を創製し、これらの材料に関する新しい学理を探究し、社会の諸問題の解決に貢献する」ことをミッションとするフロンティア材料研究所となりました。

一方で、共同利用・共同研究拠点「先端無機材料共同研究拠点」は、セラミックスと建築材料分野という異なる研究分野で相補的な特徴を持ちながら、無機材料を基盤としています。研究所の再編に伴い、建築分野の教員も引き続きフロンティア材料研究所を担当（兼任）し、本共同利用・共同研究拠点を通じて社会に貢献する体制を整えました。本要覧をご一読いただき、これまでの当研究所の活動についてご意見やご感想をお寄せいただければ幸いです。